



④ 家庭等学校外での情報モラル

令和4年度ICT利活用推進事業
伊丹市立笹原小学校

学校だよりでの「情報モラル教育啓発」

学年	全学年
教科・領域	-
ICT機器やアプリ名等	・ Google Classroom

○学校だよりを使った情報モラル教育の啓発

学校だよりの一部に、情報モラル教育に関するものを掲載しました。その他にも各クラスで行った情報モラルの授業をきっかけに不適切な端末の使い方について子ども達が気づき、学び合う場面にもつながった。

Google Classroomを活用し、文書のデジタル配信を行なっている。配信の際には、時間投稿予約設定をすることで適切な時間に配信することが可能。

○図解やイラスト挿入

デジタル配信の閲覧端末は基本的に保護者のスマートフォンである。閲覧画面が小さいことも鑑み、文章に関係する図解やイラストを差し込んだ。カラー表示されるのでよりわかりやすくなっている。またイラストを差し込むことでイメージしづらいインターネット用語や概念をわかりやすく伝えることができる。

ICT活用のポイント

- ・学校だよりや学年だよりなどの手紙や案内チラシをPDF化し、デジタルで配信することで、カラーの原稿も送付する人数に関係なく配信が可能。
- ・いつでも閲覧できる良さをいかすため、配信時のフォルダ等を見やすく整理することが重要。
- ・紙媒体では、児童に渡してから、保護者に届くまでに時間がかかったり、渡し忘れてしまう恐れがあるが、デジタルでの配信により、配信したい対象者に即時に配信することができる。



▲学校便り

オンラインによる学校に来ることができな生徒との面談

学年	全学年
教科・領域	面談
ICT機器やアプリ名等	<ul style="list-style-type: none"> ▪ Chromebook ▪ Google Meet

ICT活用のポイント

- ・家庭の電波状況が大きく関係するので、家庭の通信環境を事前に確認しておく。
- ・配布物や課題の提出・回収はオンライン面談では難しい。
- ・プリント類はPDFファイルで配信できるが、Wi-Fi対応のプリンタがないと、家庭のプリンタで印刷することが難しい。

○学校と家庭とのコミュニケーション

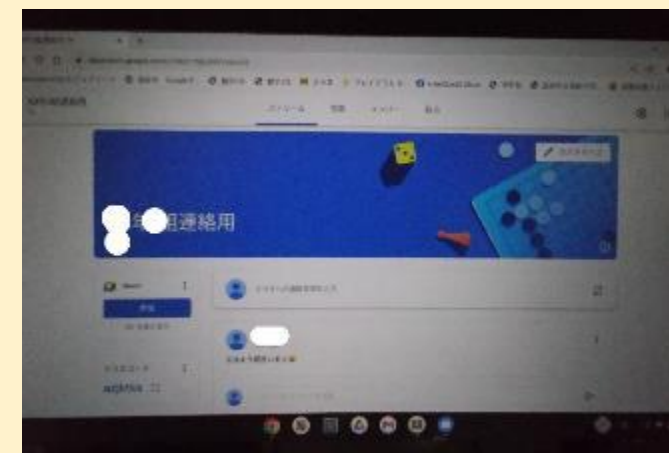
・担任が、不登校傾向のある生徒とタブレットを使ったオンラインでコミュニケーションを取り、生活の様子等を確認した。

・紙媒体のみでのやりとりのような事務的なものではなく、不登校生と顔を見ながら直接話すことで生徒に寄り添った指導が行うことができた。

・生徒側も教師側も、時間と場所に制約されずに面談することができた。



▲オンラインでの面談の様子



▲Google Classroomの様子

オンラインでの高校説明会

学年	3年
教科・領域	特別活動 オンラインでの高校説明会
ICT機器や アプリ名等	Google Meet Kahoot!

ICT活用のポイント

- ・学校のWi-Fi環境によっては接続台数が増えると、遅延や接続不良等も考えられるので、接続台数を事前に検討しておく必要がある。
- ・今回の説明会では、グループ1台で接続したことで、グループで自然に話し合う姿が見られた。
- ・高校からの一方的な説明会では、生徒の関心が高まりにくいため、オンラインで実施できるクイズ形式のアプリ等を併用することで、生徒の興味関心を高めることができる。

○オンラインを活用した高校との連携

- ・学区内の高校と本校の各教室をGoogle Meetでつなぎ、高校の概要や行事、学校生活等について説明をしていただいた。学校紹介の動画やスライドを用いたものもあり、生徒は真剣に話を聞くことができた。
 - ・高校紹介の内容を元に、クイズ用アプリ（Kahoot!）でクイズ大会を行った。
 - ・説明の最後に、高校に対する質問や感想を伝える機会をもった。中学校、高校の双方向での説明会となった。
- ⇒オンラインを活用することで、コロナ禍にも対応した高校説明会を実施することができた。また、高校の教員が中学校に訪問する必要がなくなった。



高校の先生からの学校紹介



Kahoot!を用いた学校クイズ